

予防接種を受ける前の確認事項

予防接種は健康な人が元気なときに接種し、その病原菌の感染を予防するものなので、体調の良い時に受けましょう。慢性の病気をもっている場合は、あらかじめかかりつけ医師にご相談ください。

1. 一般的な注意

安全に予防接種を受けるために、次のことを注意のうえ、当日に予防接種を受けるかどうか判断してください。

(1) 受ける予防接種について、説明書をよく読み、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは医療機関や会場で接種を受ける前に質問しましょう。

(2) 受ける前は入浴（シャワー）をさせ、身体を清潔にしましょう。

(3) 当日は体温を測り、朝から子どもの状態をよく観察し、普段と変わったことがないことを確認しましょう。接種を予定していても体調が悪いときはやめましょう。

(4) 着衣を清潔なものにしましょう。

(5) 接種を受ける子どもの日頃の状態を良く知っている保護者が連れて行きましょう。

(6) 予診票は子どもを診察して接種する医師への大切な情報です。正確に記入しましょう。

(7) 母子健康手帳と予診票を必ず持参してください。

2. 病気にかかった後の接種間隔

麻疹、風疹、水痘、おたふくかぜ等にかかった場合には、全身状態の改善を待って接種してください。医学的には、免疫状態の回復を考えて、次の間隔を空けてください。

病気にかかった後の接種間隔

かかった病気		間隔
麻疹	⇒	治ってから4週間程度
風疹、水痘、おたふくかぜなど	⇒	治ってから2～4週間程度
突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑など	⇒	治ってから1～2週間程度

3. 予防接種を受けることができない方

(1) 明らかに発熱（接種場所で測定した体温が37.5℃以上の場合）のある方

(2) 重い急性疾患にかかっている方

(3) 予防接種の成分でアナフィラキシー（接種後30分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある方

(4) BCGの場合は、外傷などによるケロイドができたことがある方

(5) B型肝炎の予防接種の対象者で、母子感染予防として、出生後にB型肝炎ワクチンの接種を受けたお子さん

(6) ロタウイルス感染症の予防接種の対象者で、腸重積症の既往歴があることが明らかなお子さん、先天性消化管障害を有するお子さん（その治療が完了したお子さんを除く。）及び重症複合免疫不全症の所見が認められるお子さん

(7) その他、医師が接種不相当と判断した方

4. 予防接種を受ける場合、医師とよく相談しなくてはならない方

次に該当する場合は、かかりつけの医師に必ず前もって診察を受け、予防接種に関する意見書をもらいましょう。

- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気及び発育障害などで治療を受けている方
- (2) 予防接種後 2 日以内に発熱及び、発しん、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられたお子さん
- (3) 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん
- (4) 過去に免疫不全の診断がなされているお子さん及び近親者に先天性免疫不全症の方がいるお子さん
（たとえば、赤ちゃんの頃、肛門のまわりにおできを繰り返すようなことがあった方の場合）
- (5) 麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）などの病気にかかっていたり、かかっている可能性のある家族や友人に接触した方
- (6) ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあるため、これらにアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん
- (7) ラテックス過敏症のお子さん
ラテックス過敏症とは、天然ゴムの製品に対する即時型の過敏症です。ラテックス製の手袋を使用時にアレルギー反応がみられた場合に疑います。
また、ラテックスと交叉反応のある果物等（バナナ、栗、キウイフルーツ、アボカド、メロン等）にアレルギーがある場合にはご相談ください。
- (8) ロタウイルス感染症の予防接種においては、活動性胃腸疾患や下痢等の胃腸障害のあるお子さん
- (9) BCGについては、過去に結核患者と長期に接触があった方、結核に感染している疑いのある方

5. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- (1) 予防接種後 30 分以内に急な副反応がおこることがあります。お子さんの様子を観察し、医師と連絡がとれるようにしましょう。
- (2) 接種後は、生ワクチンでは 4 週間、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意しましょう。
- (3) 接種部位の腫れ、高熱、嘔吐、ひきつけ、その他変わったことがあるときは、すみやかに医師の診察を受けてください。
- (4) 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- (5) 接種当日は、はげしい運動は避けましょう。

6. 各予防接種の説明と副反応について

種類	説明	副反応
ヒブ	細菌性髄膜炎や敗血症の原因であるインフルエンザ菌b型の予防接種です。	まれに発熱、発疹、じんましん、かゆみ
小児用肺炎球菌	細菌性髄膜炎や敗血症、肺炎、中耳炎の原因である肺炎球菌の予防接種です。	接種部位の腫れ、発熱
B型肝炎	B型肝炎ウイルスが血液や体液を介して感染して起きる肝臓の病気です。 B型肝炎ウイルスの感染は一過性の感染に終わる場合と、そのまま感染している状態（この状態をキャリアといいます）が続いてしまう場合があります。 キャリアは、成人になった後肝臓病を発症することで知られています。	接種部位の発赤・疼痛・発熱
四種混合不活化ポリオ	ジフテリア菌による高熱・咳・咽頭部の腫脹、百日せき菌による強い咳、破傷風菌による神経症状、ポリオウイルスによる麻痺を予防する予防接種です。	接種部位の腫れ、発熱、しこり 全身では発熱、下痢
BCG	結核の予防接種です。乳幼児が感染すると粟粒結核や結核性髄膜炎になり、重い後遺症を残すことがあります。注射はスタンプ式で管に細い針がついたものを上腕に2か所に押し付けて接種します。	接種側のわきの下のリンパ節の腫れ。接種後3～10日頃までに接種部位に発赤・腫脹・化膿がある場合（コッホ現象）は受診する。
麻疹風しん	麻疹ウイルスは感染力が極めて強いうえ、肺炎・中耳炎・脳炎などをおこすことがあります。風しんウイルスは発疹・発熱をおこしますが、年長児や大人は重症になりやすく、特に妊婦は妊娠初期に感染すると先天性風疹症候群の児が生まれる可能性があります。2回必ず接種してください。	発熱、発疹
日本脳炎	日本脳炎ウイルスに感染すると、カゼのような症状ですむ場合もありますが、けいれんや意識障害を示す急性脳炎になることがあります。	接種部位の発赤・腫れ 全身症状として発熱・悪寒・倦怠感・急性散在性脳脊髄炎（ADEM）
水痘	水痘ウイルスは、発熱と全身に水疱性の発疹をおこします。回復後も長く体内に持続感染し、体の免疫が低下すると帯状疱疹となって現れます。	発熱・発疹 接種部位の腫脹・発赤
おたふくかぜ	ムンプスウイルスは、耳の下や頬の後ろ側の耳下腺や顎下腺の腫れ、髄膜炎や難聴をおこすこともあります。症状がはっきりとしない場合もあります。	接種後2～3週間後に耳の下が腫れることがあります。
ロタ	ロタウイルスは感染性胃腸炎の原因となるウイルスの一つです。	易刺激性、下痢、咳、鼻水

子宮頸がんワクチン	ヒトパピローマウイルスは性的接触のある女性であれば50%以上の方が障害で一度は感染するとされています。当ウイルスは子宮頸がんを始め、肛門がん、膣がんなどの発生に関わっています。	多くの方に接種部位の痛みや腫れ赤みなどの症状がおこることがあります。また、まれに不随意運動などの重篤な症状が報告されています。重篤な症状として報告があったのはワクチンを受けた1万人あたり約6人です。（厚生労働省調べ）
インフルエンザ	インフルエンザウイルスに感染することで起こる病気です。普通の風邪に比べて高熱、頭痛、関節痛等の症状が突然現れ、気管支炎や肺炎を伴うなど重症になる場合があります。	接種部位の腫れ、痛み 全身症状として発熱、だるさ、悪寒
高齢者用肺炎球菌	肺炎球菌という細菌によって起こる病気です。この菌は気道の分泌物に含まれ、飛沫感染します。肺炎の予防や重症化を防ぐ効果が期待できます。	接種部位の腫れ、痛み 全身症状として発熱、だるさ、悪寒

7. 健康被害に関する救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により健康被害が生じた場合は、「予防接種健康被害救済制度」による給付を受けることになります。

任意の予防接種（おたふくかぜ・任意のインフルエンザ）による健康被害については、「独立行政法人医薬品医療機器総合機構法」に基づく給付を受けることになります。

申請が必要な場合は、かすみがうら市保健センターにご相談ください。